

## 最近の管内経済概況

～ 低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる ～

最近の動きをみると、

個人消費は、一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動きとなっている。

公共工事は、堅調となっている。

住宅建設は、低調ながら一部に持ち直しの動きがみられる。

民間設備投資は、大幅に減少している。

観光は、低調となっている。

生産活動は、持ち直しの動きがみられる。

雇用動向は、厳しい状況となっている。

企業倒産は、件数、負債総額とも減少している。

全体として、管内経済は低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる。

なお、先行きについては、国内外の経済情勢に引き続き留意する必要がある。

平成22年2月12日

照会先：経済産業省北海道経済産業局  
総務企画部調査課

T E L：011-709-2311 内線 2525

E-mail：hokkaido-chosa@meti.go.jp

U R L：http://www.hkd.meti.go.jp

# 管内経済概況判断の推移

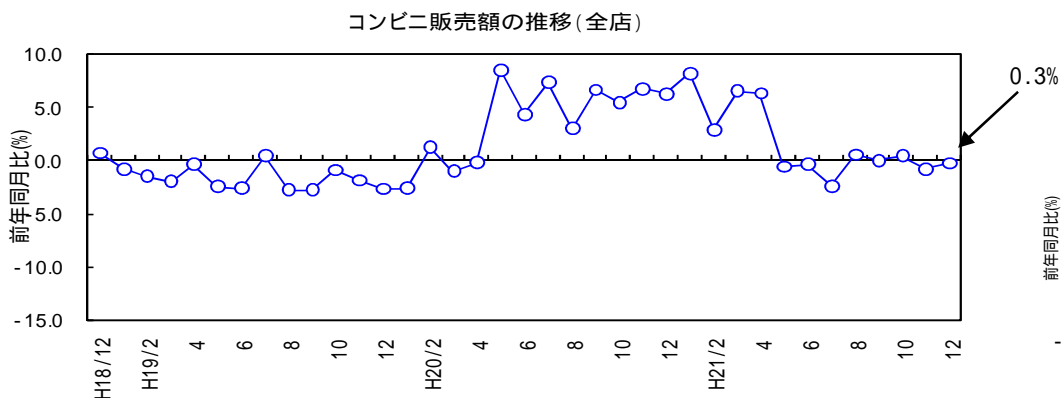
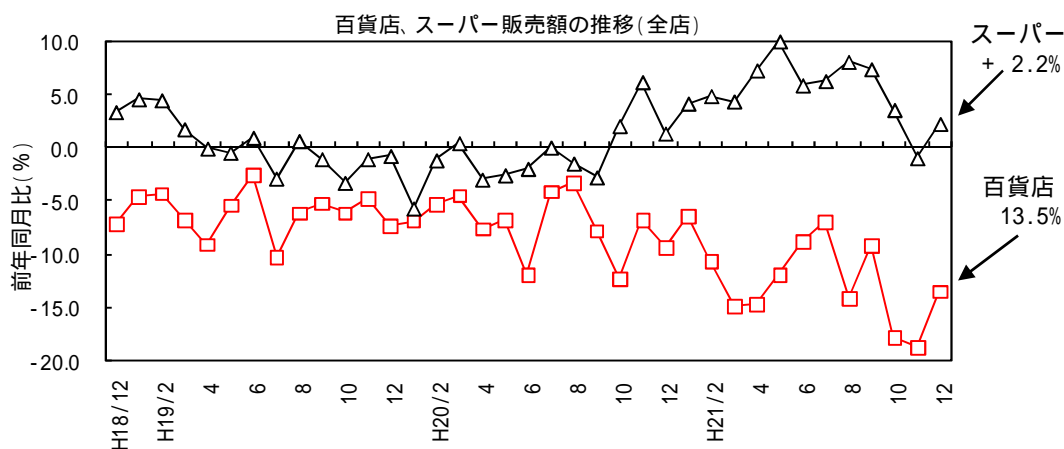
(22年2月現在)

発表月	21年9月	10月	11月	12月	22年1月	2月
総括判断	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる	低迷しているものの、一部に持ち直しの動きがみられる
全国	景気は、失業率が過去最高水準になるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある	
個人消費	一部に明るい動きがみられるものの、全体としては低調	一部に明るい動きがみられるものの、全体としては低調	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き	一部に明るさがみられるものの、全体としては弱い動き
公共工事	堅調	堅調	堅調	堅調	堅調	堅調
住宅建設	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	低調	低調ながら一部に持ち直しの動き
民間設備投資	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少	大幅に減少
観光	低調	低調	低調	低調	低調	低調
生産活動	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き	持ち直しの動き
雇用動向	さらに厳しく	さらに厳しく	厳しい状況	厳しい状況	厳しい状況	厳しい状況
企業倒産	件数は減少、負債総額は増加	件数、負債総額とも減少	件数、負債総額とも減少	件数は減少、負債総額は増加	件数、負債総額とも減少	件数、負債総額とも減少

全国は、内閣府「月別経済報告」の基調判断。

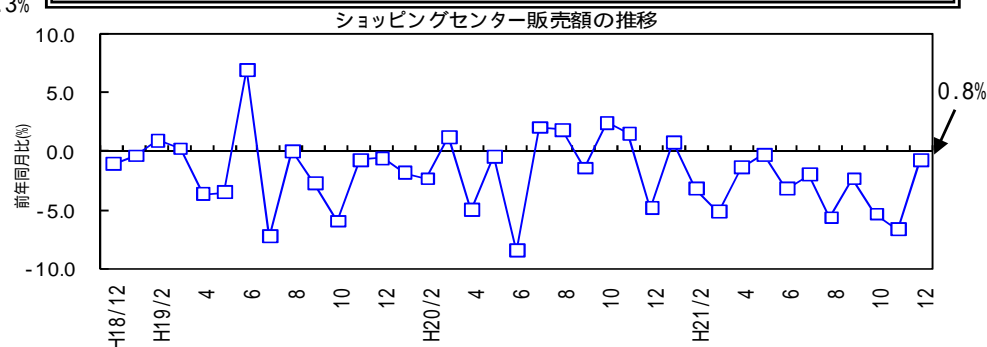
百貨店、スーパー、コンビニ販売額(12月)

- ・百貨店は、セール前倒しや冬らしい天候で衣料品に動きがあったものの、店舗減少等から前年同月比 13.5%となった。
- ・スーパーは、飲食料品が堅調に推移したことなどから、同+2.2%となった。
- ・コンビニは、同 0.3%となった。



【企業ヒアリング内容】

- ・12月は一部ブランドのセール前倒しを行ったほか、冬らしい寒さが戻ったことから、コートなどの冬物衣料の動きが良かった。(百貨店)
- ・食料品はクリスマスケーキ、おせちなどが好調だったが、法人向けギフトは大きく落ち込んだ。(百貨店)
- ・普段は我慢して節約、クリスマスや年末年始などのイベントでは少し贅沢という傾向が強くなってきている。(スーパー)
- ・客単価下落を客数や買上げ点数の増加でカバーするという傾向が続いている。(コンビニ)
- ・良いものを、より安く買うために慎重になっている消費者は多いが、自分が好きなことにはお金も時間も使ってくれる。人気のあるレストランには週末に2時間待ちの行列ができるほど。(ショッピングセンター)
- ・初売りは天候の影響もあり、昨年を下回るスタートとなったが、その後持ち直してきている。セール前倒しの反動を懸念していたが、1月はそれほど大きな影響は出ていない。(百貨店)
- ・1月前半は堅調に推移していたが、中旬以降、局地的な大雪の影響などで伸び悩んでいる。12月にお金を使った分、少し引き締めようという意識が働いているのかもしれない。(スーパー)
- ・1月は12月よりは少し良い感じ。降雪量が多くなると除雪作業の人たちで、夜間の売上が伸びる店が多い。(コンビニ)

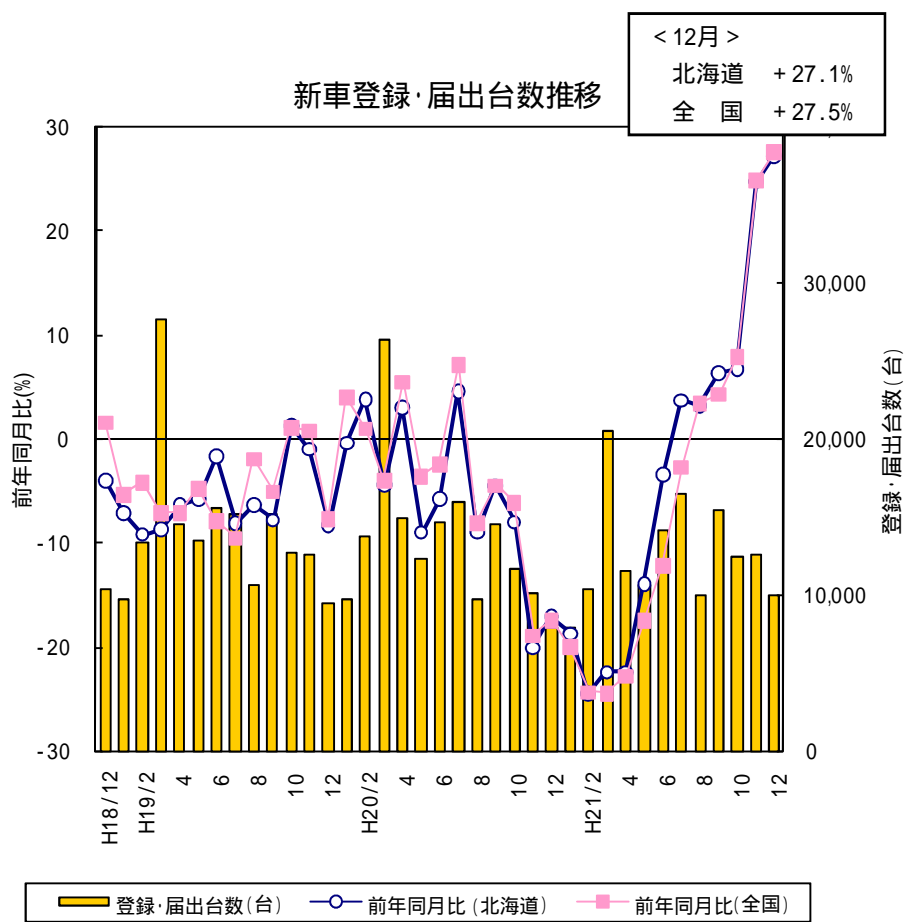


(資料:北海道経済産業局)

(資料:(社)日本ショッピングセンター協会)

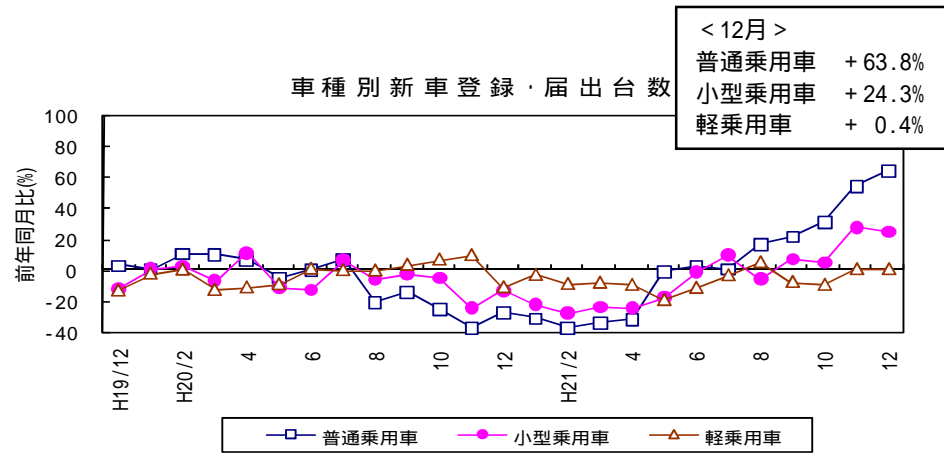
新車登録・届出台数、家電販売額（12月）

- ・エコカー減税・補助金の効果等から、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を上回り、全体では前年同月比 +27.1%となった。
- ・家電販売は、エコポイント制度の効果等から、薄型テレビ、冷蔵庫などが引き続き好調。



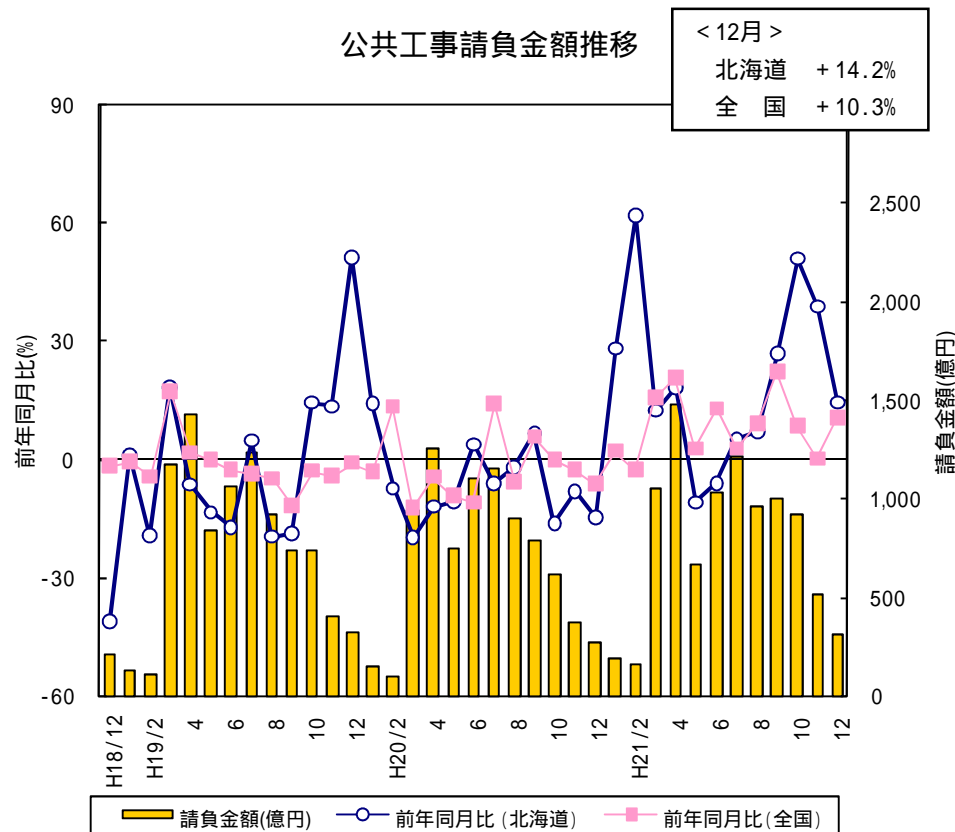
【企業ヒアリング内容】

- ・昨年の8月、9月頃からエコカー減税・補助金によるニーズが一気に盛り上がり、それ以降、販売台数が前年を下回ったことはない。しかし、小型車がメインのため売上額としてはまだマイナス。(ディーラー)
- ・昨年末に販売した軽自動車の新モデルが好調。軽としてはやや価格が高いものの、装備が充実しており今後もまだ伸びると思う。(ディーラー)
- ・エコカー補助金の延長が発表された後も売れ行きは落ちていない。9月まではこの勢いが続くだろう。(ディーラー)
- ・年末のテレビコーナーは連日混雑が続き、薄型テレビは大幅な伸びとなった。2台目、3台目として購入するお客も増えている。(家電販売)
- ・少しでも安く、良いものを購入しようと、ネットの情報や他店の価格を調べて来店するお客が増えている。(家電販売)
- ・ゲーム機は価格の引き下げに加え、年末にゲームソフトの人気タイトルが相次いで発売され、一部に品切れが出るほどの売れ行きだった。(家電販売)



(資料：(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会)

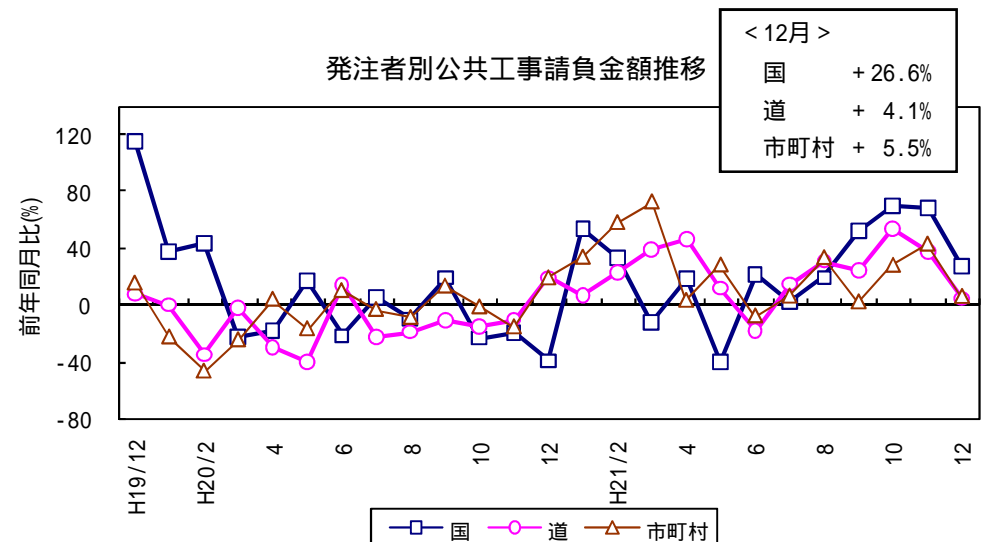
・12月の公共工事請負金額は、国、道、市町村ともに前年を上回り、全体では前年同月比+14.2%となった。



(資料:北海道建設業信用保証(株))

【企業ヒアリング内容】

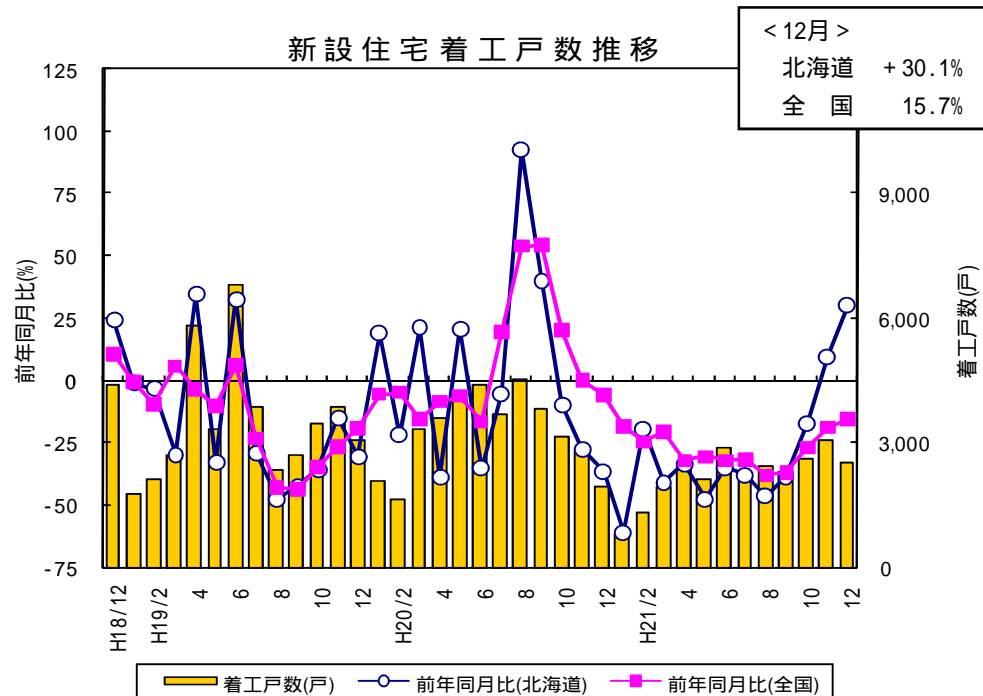
- ・今期は道や国の補正関係の工事で何とかなっている。市営住宅などの耐震工事関係の発注も多い。(建設)
- ・昨年夏の天候不順の影響で遅れた発注が今になって出てきており、土木関係は忙しい。作業員が足りず、新しい仕事を取りたくても手が回らないような状態。(関係団体)
- ・公共工事の利益率はもう民間とそれほど変わらない。あまり利益が見込めない案件は、積極的には取りにいけない。(建設)
- ・建設関係は年度内の仕事量は大丈夫だと聞いているが、公共工事予算が大きく減ってしまったため来年度は厳しいだろう。民需に移りたくても仕事が少なく簡単には行かない。(関係機関)
- ・売上の3割は官公需のため、公共工事の減少は大きな影響がある。今後はリサイクルやバイオマスなど環境プラント関係の受注を増やしていきたい。(一般機械)
- ・1月は補正予算による発注が一段落したため多少勢いが落ちたが、ほぼ前年並みのゼロ口国が成立しホッとしている。2月、3月はそれなりの量の発注が出てくると思われる。(関係団体)



# 住宅建設 ~低調ながら一部に持ち直しの動き~

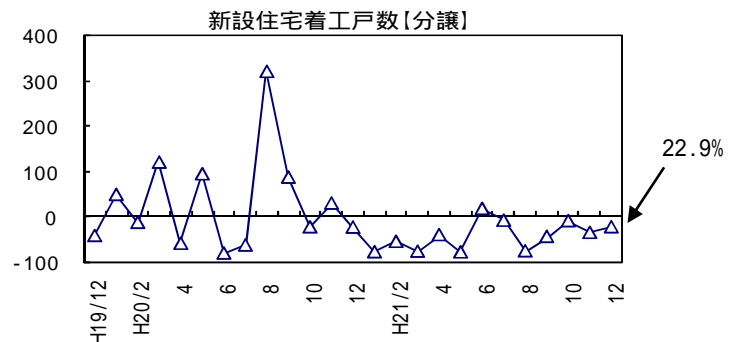
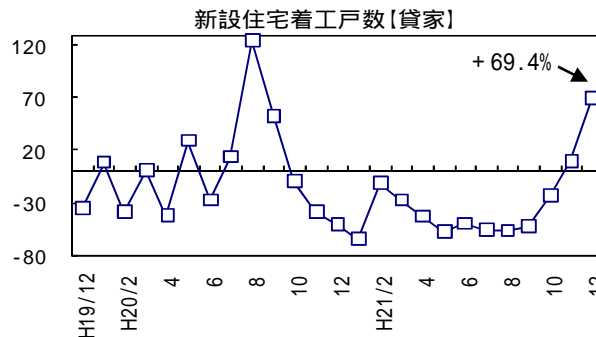
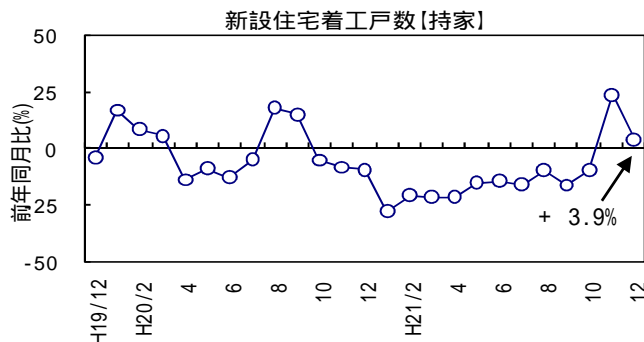
# 住宅建設

- ・12月の新設住宅の着工戸数は、分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回り、全体で前年同月比+30.1%となった。



**【企業ヒアリング内容】**

- ・リーマンショック後は、受注がひどく落ち込んだが、展示場の来場客数は一昨年並まで戻ってきている。ただ、購入前に慎重に検討する傾向が強くなっているため、契約までには時間がかかる。(住宅)
- ・市況を考え着工を延期していた物件のプランを見直し中。当初は広めに設計していた一戸当たり面積を3割程度縮小し、現在のマーケットに見合った価格設定とし、今春には着工する予定。(マンション)
- ・リフォーム・増改築はほとんど落ち込むことなく、今期は10%増で推移。特に、太陽光発電設置工事が大きく伸びてきている。(住宅)
- ・去年は各社とも用地取得は行わず、在庫物件の圧縮に注力した。さすがに今年は土地の仕入れに動き出すだろうが、人気がある土地は限られており、競争が激しくなるだろう。(マンション)
- ・今年もマンションはそれほど増えないと思う。マンションの図面を引いている設計会社が少ない。企画段階でストップしたままの物件もある。(建設)
- ・戸建ての受注落ち込みを少しでもカバーするため、昨年からアパート部門の人員を強化したが、目標棟数の半分にも届いていない。(住宅)



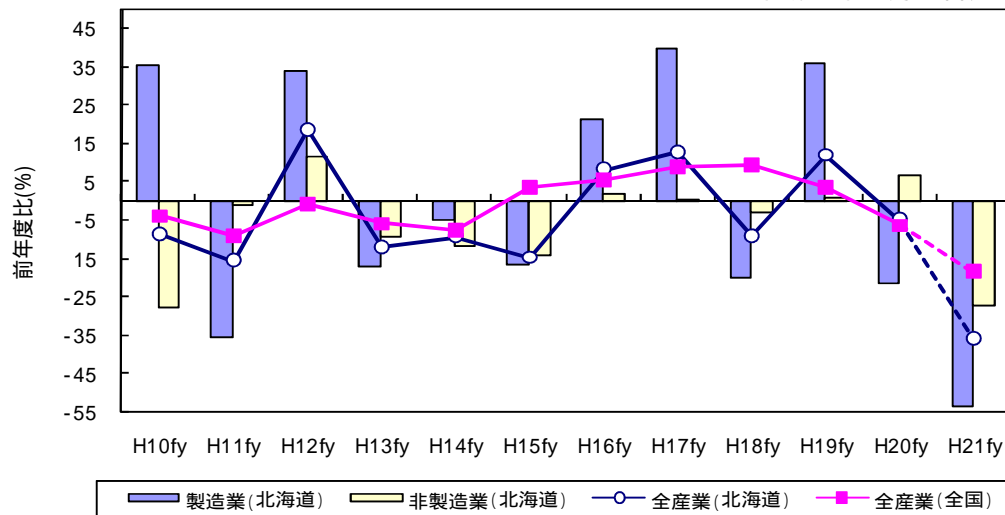
(資料:国土交通省)

民間設備投資 ~大幅に減少~

・21年度の設備投資計画は、製造業、非製造業ともに前年度を大きく下回っている。

日銀短観の設備投資動向(製造業、非製造業別)

平成21年12月14日発表



	<20年度>	<21年度計画>
北海道	5.1%	36.2%
製造業	21.7%	53.3%
非製造業	+6.9%	27.3%
全国	6.4%	18.8%

【企業ヒアリング内容】

- ・マンション、オフィスビル新築の仕事はまるで無い。期待していた工場建設も延期されてしまった。(建設)
- ・工場の設備補修関係の仕事が少なくなった。各社とも機械を我慢して使っているらしく、多少調子が悪い程度では修理しなくなっている。(メッキ)
- ・稼働率が回復しない現在、今年度は維持補修のみで新たな投資の予定はない。暫くは生産体制の立て直しに注力するため、不急不要の投資は控える方針。(金属製品)
- ・今年度は農業関連の補正予算の追い風もあり、売上が好調だったため、これまでできなかった設備投資を集中的に行なった。来年度以降は、また例年並みの規模に戻る見込み。(農業機械)
- ・商業店舗等のシャッターやドアがこのところ減ってきている。手持ち工事は残っていない。(スチール建具)
- ・客室などの改装予定はない。ただ、今後中国人観光客が増えていくことへの対応として、銀聯カード導入にかかる配線、端末工事を実施。(ホテル)

(資料:日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査 (設備投資)

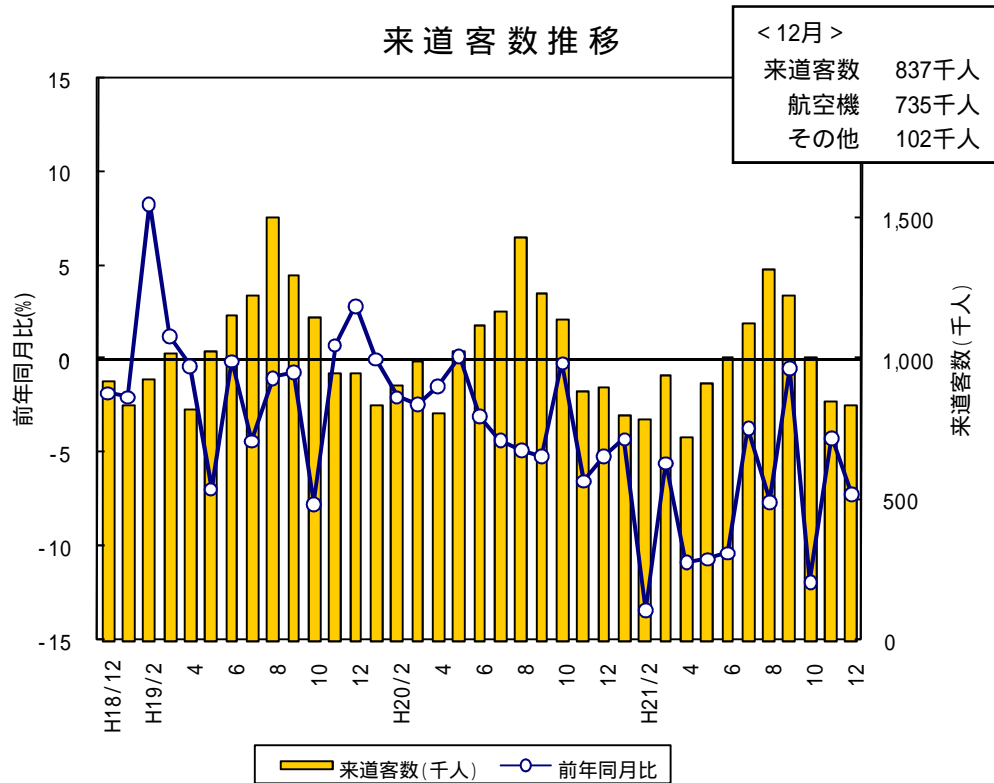
平成21年12月24日発表

前年(同期)比 (%)	20年度	21年度 (計画)	
		上期	下期
全産業	14.4	19.5	12.0
製造業	2.7	34.1	29.6
非製造業	24.0	11.8	2.4

(資料:北海道財務局)

注)土地購入額を含む。ソフトウェア投資額を除く。

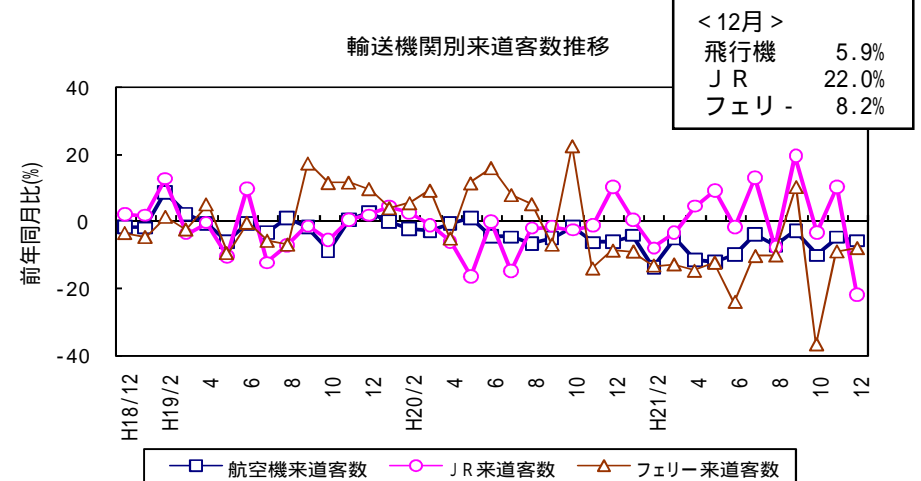
・ 12月の来道客数は、前年同月比 7.2%となった。



(資料: (社)北海道観光振興機構)

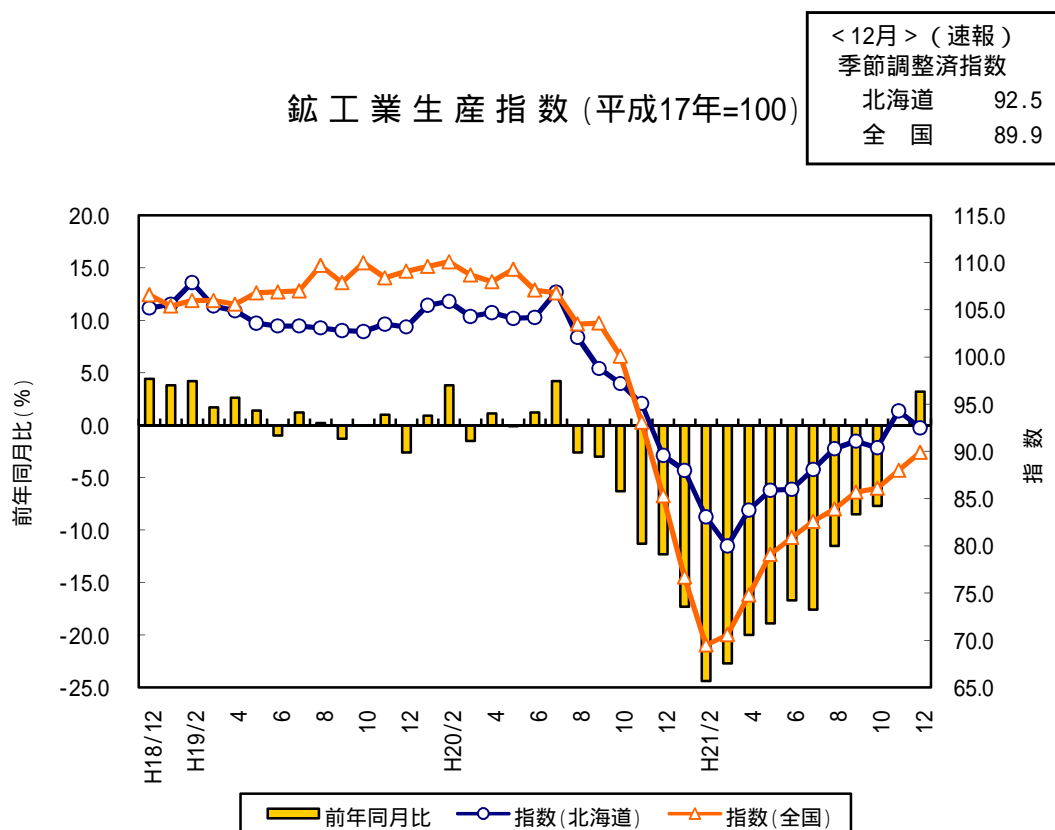
#### 【企業ヒアリング内容】

- ・ 12月の客室稼働率は昨年より1割近く落ち苦戦した。特にエージェン特経由の個人旅行は昨年の半分以下となっている。(ホテル)
- ・ 国内客は依然として良くないが、タイやマレーシア、中国、シンガポールなどの富裕層の入込増加が国内の減少分を多少カバーしている。(ホテル)
- ・ 市内のビジネスホテルは供給過剰で、価格競争の激しさが増している。オフシーズンには1泊2千円台の料金設定までである。(関係機関)
- ・ 今は旅行より、エコ家電やエコカーなどお買い得感が高いものにお金が回されているようだ。(旅行代理店)
- ・ 年末年始の動きは鈍かった。景気の冷え込みに加えて日並びが悪かったこともあり、遠出を控えて近場で過ごす人が多かったようだ。(関係団体)
- ・ 2月の雪まつりやアジアの旧正月期間の予約はそれなりに入っている。ただ2月全体でみると決して良いとは言えない。(ホテル)
- ・ 中国、ロシア機の新千歳空港乗り入れ規制緩和は、特に中国客に期待している。中国客は今も増えているが、新国際線ターミナルビルオープンと相まって、さらに弾みがつくだろう。(旅行代理店)



## 生産活動 ～ 持ち直しの動き ～

- ・ 12月の鉱工業生産は、前月比 1.9%と2か月振りの低下、前年同月比+3.2%と17か月振りの上昇となった。
- ・ 一般機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業、電気機械工業等が低下、窯業・土石製品工業、鉄鋼業等が上昇している。



(資料: 経済産業省、北海道経済産業局)

## 【企業ヒアリング内容】

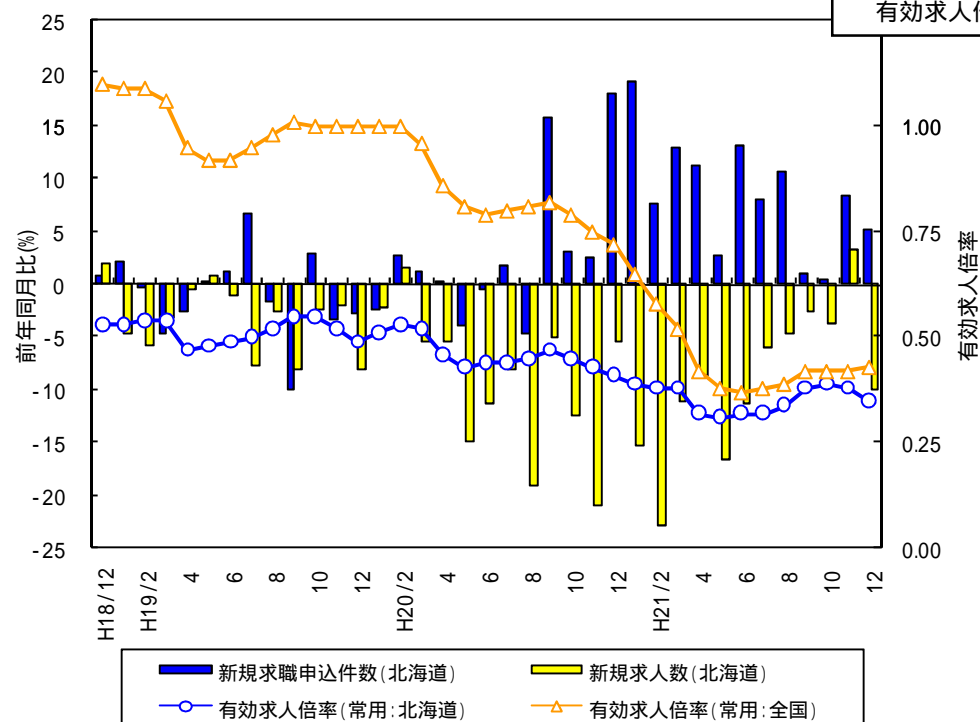
- ・ 自動車向け鋼材の伸びでフル稼働に近づいている。今のところ3月まではこの水準が続く見通し。(鉄鋼)
- ・ チラシなど広告需要の減少で、印刷用紙の生産が落ち込んでいる。回復にはもう少しばかりかかりそう。(紙・パルプ)
- ・ 携帯電話向け受注などで生産は右肩上がり。数量的には明るい状況だが、単価など取引条件が厳しく、収益を下支えするまでには至っていない。(電気機械)
- ・ 昨年に比べ2次製品の動きが格段に良い。高規格道路やトンネルなどで年度末に向け受注が伸びている。しかし、来年度以降は不透明。(コンクリート二次製品)
- ・ 建築不振で国内の棒鋼需要は冷え込みが深刻。一定量の輸出はあるが、価格的には採算割れぎりぎり。(鉄鋼)
- ・ カーナビ向け部品を中心にほぼフル生産が続いている。多層化・高機能化が進み、単価が高いものに徐々に生産がシフト。(電気機械)
- ・ 在庫調整の進展でジュースの生産数量は増加。しかし、消費の節約志向が強まっている中、定価販売が多い自動販売機やコンビニ向けの需要は低調。(食料品)
- ・ 年度末まで生産は横ばいで推移する見通し。海外向けは、欧州がやや伸び悩んでいる一方、中国を中心としたアジアは堅調で、徐々に比率が高まってきている。(輸送機械)
- ・ 国内需要の落ち込みで、今後の見通しが厳しく、全社的に工場毎の生産体制の見直しを行うことにしている。(窯業・土石)
- ・ 衛生用紙は輸入紙の影響もあり、安くなければ売れない状況。生産は引き続き価格次第の動き。(紙・パルプ)

雇用動向 ~ 厳しい状況 ~

- ・ 12月の有効求人倍率は0.35倍と、前年同月差で0.06ポイント低下した。
- ・ 新規求人数は前年同月比 10.1%と前年を下回った。新規求職件数は同+5.2%と前年を上回った。
- ・ 事業主都合離職者は同 27.0%と前年を下回った。

新規求職・新規求人・有効求人倍率(常用)

<12月>	
有効求人倍率(常用)	0.35倍
新規求人数	10.1%
新規求職申込件数	+ 5.2%
全国	
有効求人倍率(常用)	0.43倍



(資料:厚生労働省、北海道労働局)

**【企業ヒアリング内容】**

- ・ 昨年も今年も新規採用なし。定年で退職する者もいるが、まだ過剰感があるため、当分補充は行わない。(非鉄金属)
- ・ 市内の企業で新規採用の話はほとんど聞いていない。高校側も、求人が少ないため可能なら進学するよう指導しているそうだ。(関係機関)
- ・ どんな状況であっても、人を入れていかなければ技術の継承が途切れてしまうので、今年は大卒を採用するつもり。若手技術者の定着は以前よりも良くなっている。(一般機械)
- ・ 従業員は高齢化しているものの、水産加工業に対する3K意識などから人が集まらない。新規採用者の半分が1年で辞め、10人採用して最終的に2人残れば良い方。(関係団体)
- ・ これまでは企業から求人票が出てくるのを待っていればよかったが、今年は緊急対策として企業を回り求人の開拓を行っている。(大学)
- ・ 今年度は19名の退職者の補充という意味合いで、11名を新規採用。22年度については未定。(一般機械)
- ・ 新卒を採用して一人前になるまで育てられるような余裕はなく、人材が必要になれば即戦力になる人材をどこから引き抜く。(建設)
- ・ 当社のホームページを見たリターン希望の本州大手メーカー技術者からアプローチがきているが、人員を増やす余裕がないため保留している。(メッキ)
- ・ 営業マンの採用は本社で一括採用し、各地域の支店に振り分ける。最近の新規採用は供給ボリュームの多い首都圏、大阪、名古屋に振り分けられ、地方には来ない。(マンション)

# 企業倒産 ~ 件数、負債総額とも減少 ~

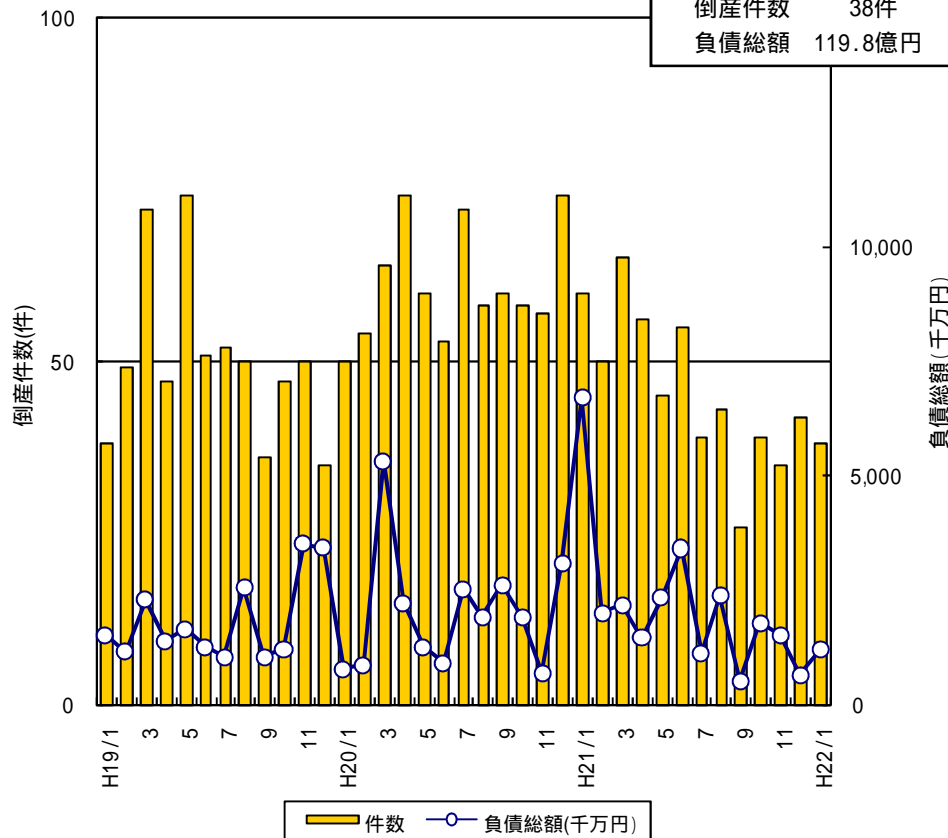
# 企業倒産

- ・ 1月の倒産件数は、38件で前年同月比 36.7%と前年を下回った。
- ・ 負債総額は、119.8億円で同 82.1%と前年を下回った。

### 【企業ヒアリング内容】

- ・ 補正予算と中小企業への金融支援が効いて、何とか持ちこたえている企業が多い。（窯業・土石）
- ・ 市内のスポーツ店が周りから閉店をすすめられスッパリとやめた。赤字ではなかったが、大手には太刀打ちできないと思い、店を閉めたようだ。（関係機関）
- ・ 建設会社の多くは、公共事業の先細りを見越して、数年前から既に人員削減、賃金引き下げなどの経営合理化を進めている。（専門サービス）
- ・ 他のホテルに対抗して少しでも稼働率を上げるために料金を下げてきたが、もう限界にきている。これからは利益確保に向かわないと本当に厳しい。（ホテル）
- ・ 経営が厳しい建設会社では、工事契約書を見せなければ金融機関がお金を貸してくれないといった話を聞く。（建設）
- ・ ゼロ国の公共工事の発注で当面は大丈夫と思うが、夏以降は相当厳しくなるだろう。民間の仕事が少ない地方ほど廃業や倒産が増えるのではないか。（関係団体）
- ・ デフレの状況の中、価格引き下げを余儀なくされ、業況が悪化している小売や飲食店は多い。（専門サービス）

### 企業倒産推移



(資料: (株)東京商工リサ - 子北海道支社)

### 業種別倒産件数推移

